

論壇

概念変わる異色の参入

米国のアップル社が自動車の生産に乗り出すのではないかと米国内で報道された。この話は業界でも大きな衝撃をもって受け止められている。

これまで自動車生産とは関係のなかったアップルという企業が参入してくるといふ単純な話ではない。自動車産業の中身が大幅に変わるということだ。これまでもいろいろな形でさざやかれていたことであるが、具体的に動き始めるかもしれないと業界が身構え始めている。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

アップルは 아이폰 という斬新なスマートフォンを開発することで携帯電話の世界を大きく変えてしまった。旧来の携帯電話の時代には、日本では NEC や パナソニック のガラケー(旧来型の携帯電話)が日本国内で大きな市場シェアをもっていたし、世界市場ではフィンランドのノキアが最大

役割が重要となっていた。自動車でもネットワークを通じて外の世界とつながり、ソフトウェアの役割が拡大すると、従来のスタンドアロンの自動車の性格が変わってくる。Maas(モビリティ・アズ・ア・サービス)という言葉が、外と自動車がつながることさまざまなサービスを提供することが

米アップルの自動車生産

シェアをもっていた。そうした携帯電話がほとんど消滅してしまっただけだ。

スマートフォンは携帯電話の概念を変えてしまった。スマホを通じて実にさまざまな機能が提供されている。また、そこではハードウェアではなく、ソフトウェアの

ビジネスを広げる。つまり、自動車は単体で走る機器ではなく、ネットワーク社会に取り込まれていく。

メーカーは挑戦の時代

自動車メーカーにとつては、こうしたトレンドは大きなチャレンジである。もちろん、自動車が外の世界とつながるコネクティッド

カーの流れや、それを通じてMaasのサービスを提供できることは、自動車の付加価値を高めるという意味で旧来の自動車メーカーにとつてもプラスの面もある。ただ、そうした世界にアップルのような新規事業者が参入してくると、またハードウェアよりもソフトウェアの重要性が増していくことなど、旧来のメーカーに大きなチャレンジとなることも多い。日本にとつて自動車産業の存在は非常に大きい。自動車の部品や素材などの産業まで含めると、その規模は膨大なものになる。ましてや静岡県にとつては自動車やその関連産業のウエートはさらに大きい。この産業で起こりつつある大きな変化に注目しなくてはならない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。